

科目分類	看護専門科目 応用看護		開講時期	3年	前期
科目名	健康支援論				
選択/必修	選択	単位数(時間数)	2単位	60時間	授業形態 演習
担当教員	鈴木 隆史 ・ 畑野 相子				
メールアドレス	鈴木：t-suzuki@tsuruga-nu.ac.jp		オフィスアワー	鈴木：講義日 畑野：講義日	

授業目的	地域看護活動を展開する上で必要な基礎知識をもとに、人々が健康への関心を高め、健康行動が実践できるような健康支援技術を身につける。保健活動の対象は地域に在住する個人、家族、集団、組織であるので、その特性を踏まえた接近方法を学ぶ。
授業概要	健康課題に合わせて支援方法の理論と実際を教授する。授業は、事例検討や支援場面のロールプレイング、および学生自らの体験を導入した学習プログラムを展開する。グループダイナミクスを生かした授業にするために、討議とプレゼンテーションを大事にして展開する。
授業計画	<p>第1・2回 授業概要のオリエンテーション 我が国の疾病構造の変化とヘルスプロモーション 健康問題の捉え方</p> <p>第3・4回 自らが納得して行動変容するための支援(1) メディアや事例分析を通して方法を考える</p> <p>第5・6回 自らが納得して行動変容するための支援(2) 生活習慣病はなぜいけないのか?について納得がいく説明とは? 健康のために自由を制限できるか?について考える</p> <p>第7・8回 自らが納得して行動変容するための支援(3) コーチングなどのコミュニケーション技術を考える。 ロールプレイング</p> <p>第9・10回 自らが納得して行動変容するための支援(4) 強みを生かす支援 リフレーミングなど</p> <p>第11・12回 健康教育について 教育指導案の意義と目的と構成要素</p> <p>第13・14回 成人期における健康問題の把握と支援(1) 早期発見から生活支援の考え方 特定健診・特定保健指導について 変化のステージモデル</p> <p>第15・16回 成人期における健康問題の把握と支援(2) 生活習慣病の保健指導(減塩対策等)を考える 自分たちの生活を振り返ってみよう 生活の知恵の発見・・・人々の工夫を聞いてみよう</p>

	<p>第 17・18 回 個の問題から集団の問題を考える ライフコーダを用いて自分の活動を知ろう。</p> <p>第 19・20 回 母子保健における健康問題の早期発見から生活支援の考え方 乳幼児健康診査のポイントと対応</p> <p>第 21・22 回 家庭訪問による生活支援の考え方 (演習 1) 新生児、結核、虐待、認知症等の事例で演習をする。</p> <p>第 23・24 回 住民が主体的に健康問題に取り組めるための支援 地区組織活動を考える 集団を用いた生活支援</p> <p>第 25・26 回 健康教育指導案作成 (1) (演習 2)</p> <p>第 27・28 回 健康教育プレゼンテーション (1) (演習 3) 健康教育指導案作成 (2) (演習 4)</p> <p>第 29・30 回 健康教育プレゼンテーション (2) (演習 5) 健康支援論総括</p> <p>担当者 第 1 回～第 30 回 鈴木隆史 畑野相子</p>
<p>教材 参考文献等</p>	<p>教科書 標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術 第 4 版 医学書院 著者代表 中村裕美子</p> <p>参考書 (1) 健康行動理論の基礎 松本千明著 医歯薬出版株式会社 (2) 新セミナー生活習慣病&lt;第 2 版&gt; 田中逸著 日本医事新報社 (3) コーチングで保健指導がかわる 編者：柳澤厚生 医学書院 (4) 社会を変える健康のサイエンス 東京大学医学部健康総合科学科編 東京大学出版会 (5) 実践 行動変容のためのヘルスコミュニケーション 人を動かす 10 原則 奥原剛 著 大修館書店 (6) 子どもノート 保健活動を考える自主的研究会 編集</p>
<p>成績評価 基準・方法</p>	<p>筆記試験 (70%)、講義・演習への参加状況と課題の成果等 (30%) を基準に総合的に判断する。ただし、筆記試験は 100 点満点で 60 点以上をとること</p> <p>受験資格要件は、出席日数が全講義時間数の 2/3 以上であること</p>
<p>履修要件</p>	<p>特になし</p>
<p>留意事項 その他</p>	<p>本科目を修得していないと、地域看護学実習 I・II 及び地域看護管理実習は履修できません。</p> <p>授業内容は、講義・演習の進行度に応じて、変更することがある。</p> <p>演習、討議などを取り入れるので、積極的に参加してください。</p>
<p>実務経験のある 教員の教育方法</p>	<p>保健師として、政令市等での地域看護活動の経験を活かして、地域で生活する人々の健康を護るための支援について講義および演習を行う。</p>